

[八丈島管内における遺伝資源の収集・評価・保存]

## ロベ潮風害の把握と軽減対策技術の探索

### ～葉先枯れと飛散塩量の関係性～

高村拳士郎・菊池知古・鈴木克彰

(島しょセ八丈)

---

**【要約】** ロベの葉の品質は11月から4月にかけて低下し、その後、翌年の5月頃にかけて回復する傾向がみられるが、飛散塩量との関係性ははっきりしない。

---

#### 【目的】

八丈島は台風などの強風に晒される機会が多く、特産切り葉のフェニックス・ロベレニー（以下、ロベ）は葉先が傷むなど潮風害に悩まされている。そこで、本試験では島内6地点のロベ圃場における葉先枯れ症状と飛散塩量の調査を実施し、その関係性を把握することで潮風害対策の資料とする。

#### 【方法】

2023年5月29日から2024年3月27日にかけて概ね月1回、同年4月25日から2025年11月12日にかけて概ね2週間に1回の頻度で計49回、島内6地点のロベ圃場で目視による葉先枯れの調査および設置した塩採集装置で飛散塩を採取し、その量を測定した（図1～3）。葉先枯れは、各圃場を東、西、南、北および中央の5つに分け、それぞれから20枚ずつ合計100枚の展開直後の葉について出荷規格に準じて調査した。品質は出荷規格の等級に応じて最上位を指数3とし、以下、程度ごとに指数化し「 $\Sigma$ （指数×各指数に該当する葉数）/（3×調査葉数）×3」として求めた。飛散塩量は、塩採集装置に取付けたペットボトルに溜まった水および装置上部のステンレス板に付着した塩を蒸留水で洗浄し、得られた水のナトリウムイオン濃度を測定することで調査した。

#### 【成果の概要】

1. 葉の品質について、2023年度は飛散塩量が品質と反比例するように増減したが、2024、2025年度には同様の傾向がみられなかった。また、品質はいずれの調査地点においても概ね11月以降に低下し、翌年の3月から4月にかけて最も低下した後、5月頃にかけて回復する傾向がみられた。このような冬季の品質低下は、植物体の成長が緩慢になることが関係していると考えられる（図4）。
2. 2025年10月9日および13日に襲来した台風22号および23号による強い北風の影響で、島の北東部に位置する三根圃場では大量に海水由来の飛沫が飛散し、飛散塩量が11.4mgと高くなった。また、品質についても2.0と低く、顕著な葉先枯れが生じた。一方、飛散塩量が多くない庁舎においても品質が大きく低下したことから、葉先枯れの発生には、風が影響を及ぼしていることが考えられる（図4）。

#### 【残された課題・成果の活用・留意点】

調査地点ごとの風速や風向が及ぼす葉先枯れと飛散塩量の関係性への影響を解析する。



図1 調査地点



図2 葉先枯れ症状

葉先が5 cm以上傷み出荷不可となった葉



図3 塩捕集装置

調査地点に設置した塩捕集装置

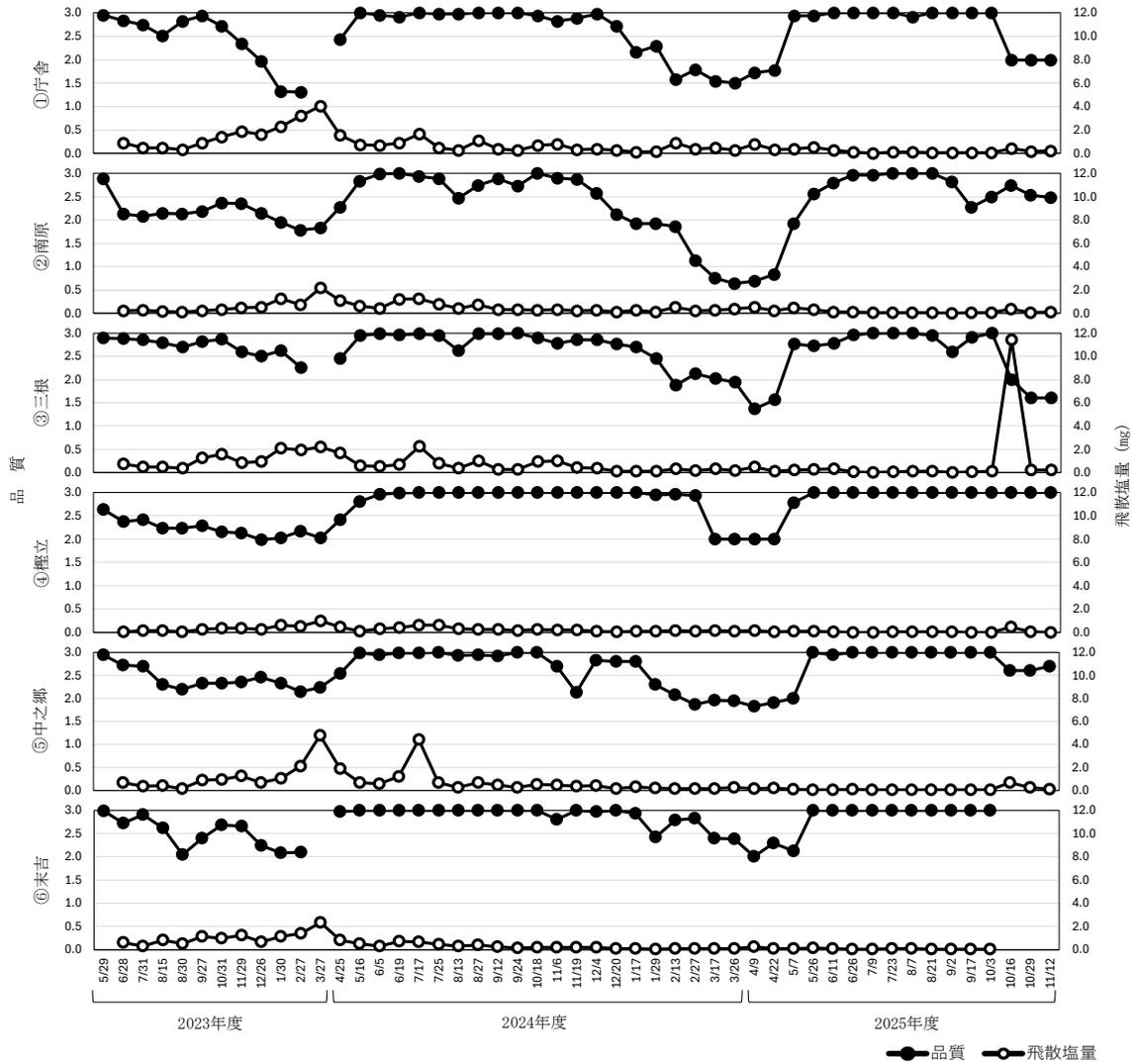


図4 飛散塩量と品質の関係

飛散塩量 (mg) = 採水量 (mL) × ナトリウムイオン濃度 (ppm)

品質 =  $\Sigma$  (指数 × 各指数に該当する葉数) / (3 × 調査葉数)

指数0 : 葉先の傷みが5 cm以上, 指数1 : 葉先の傷みが3 cm以上5 cm未満,

指数2 : 葉先の傷みが5 mm以上3 cm未満, 指数3 : 葉先の傷みが5 mm未満

2023年度については一部データなし

2025年度の末吉については、台風22号および23号の影響により10月3日以降の調査は未実施